
勝つよ、行彦！

えんぴつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勝つよ、行彦！

【Nコード】

N9789B

【作者名】

えんぴつ

【あらすじ】

デリカシーのかけらもない父と、その父に泣かされ続けた母に育てられた娘ゆかりは、結婚するなら、真面目でやさしい男と決めていた。そして、ついに理想の彼・行彦と出会い、両親に紹介したのだが……。

「なんだ、なんだ、このナヨナヨした女みてえな野郎は。お嬢さんをください、だとお。蚊の鳴くような声だしやがって。オカマか、おめえは。けえれ、けえれ！」

あー、やっぱり。

思ったとおりの親父の反応。

それにしても、行彦も情けないなあ。

なにオドオドして、私の方ばかり見てるのよ。

ちょっとは男らしく、堂々と親父に言い返せて。

あーあ、下向いちゃったよ。

こりゃ、ダメか。

しょうがない。私が一発かますとするか。

「ちょっと待ってよ。父さん。行彦は父さんとは正反対の性格なの。下品で野蛮な父さんとは違うのよ。その代わり、とってもやさしいんだから。いくら父さんが反対しても、私は行彦と結婚するって決めてるんだからね」

プウ、プウッ

あちゃ〜、この親父、初対面の行彦の前で屁をこきやがった。

「ざまあみやがれ、こんちくしょうめ」

親父は捨て台詞を残して立ち上がると、パチンコへ行ってしまった。

「ちょっと、なあに、あの態度。母さん、なんか言ってるよ」

私は、母さんに助けを求め、

「ははは……ねえ、ちょっとビックリさせちゃったね。いつもはあんなんじゃないのよ……」

さらに私の横で固まっている行彦に対して、取り繕った。

うそだった。

ウチの親父はいつもこうだった。

家の中では年中ステテコ一丁で過ごし、ところ構わずオナラをする。

デリカシーなんてものは、カケラも持ち合わせていない人種なのだ。

そう、典型的な下町のおっさんを想像してもらえばいい。

いまではもう化石のようなチャキチャキの江戸っ子ってやつだ。

男はケンカのひとつもできないようじゃ男じゃないし、女は黙って男に尽くすものだと思われて疑われない。

私はイヤだ。

こんな親父に泣かされ続けた母さんを見て育った私は、結婚するなら絶対に父さんとは正反対のやさしい人と心に決めていた。

そして、選んだ男が、この行彦だ。

私と同じ銀行に勤める、同じ歳。

かなり頼りないけど、やさしくて、真面目だ。

なにより、私の言うことをよく聞く。

私にとっては、理想的な男だった。

親父がいくら反対しようとも、絶対に結婚してみせるから……。

普通、ドラマなんかだと、ここらで母さんが果物でも剥いて来て、

「父さん、寂しいのよ。大丈夫。あとは母さんがうまく言うておくから。行彦さん、娘をよろしく願いますよ」

なんて」と言つとくるけど、

「あれ、母さんは？」

「お母さんも一緒にパチンコへ行つたみたい。ぼく、ゆかりさんの
ご両親に嫌われちゃったね……。どうしよう……」

そう言えば最近、母さんもパチンコにハマッているんだっけ。

それにしても、かわいい一人娘が初めて恋人を連れて来たつてい
うのに、なんていう両親だ。

2人揃つてパチンコへ行くか、フツ！。

「行彦も弱音吐いてどうするのよ。私と結婚したいんでしょ？ だ
つたら、こんなことぐらいでメゲないの。結婚したら、あの2人と
一緒に暮らすんだからね。いままでちょっと控えめに話してたけど、
ウチの両親は手強いわよ。それでも私と結婚する？」

「うん」

「よし！ なら行くわよ」

「え、行くつてどこへ？」

「決まっているでしょ。パチンコよ。こつなりや勝負よ！」

「おう、いやがったな、親父！」

「おお、ゆかりか。へ、いつもの調子に戻りやがったな、こんちくしょうめ。あんなへナチヨコやめとけよ」

「余計なお世話なんだよ。それより勝負だ、親父。閉店までの3時間です。どっちが多く玉を出すか。そっちは母さんと2人の合計。こっちは私たち2人だ。私たちが勝ったら、気持ちよく結婚を認めること。どうだ、親父、受けて立つか！」

「そりゃ、おもしれえや。こっちが勝ったら、キツパリと諦めるんだな。おい、カカア、聞いたか？」

「あいよ。任せときな、あんた。ゆかり、悪いけど、この勝負、もらったよ。そら、リーチだ」

か、母さん……。

昔はこんなじゃなかったのに……。最近、なんか吹っ切れたみたい。

いいの？ 娘の結婚をパチンコなんかで決めて……。

まあ、いいか、言い出しっぺは、この私なんだし。

「ゆ、ゆかりさん、ちょっと、ま、待って。パチンコ勝負って……。それにゆかりさん、いつものゆかりさんじゃない……。ど、どうしちゃったの？」

「男が決まったこと、ガタガタ言うんじゃないの。それより行彦、パチンコぐらいしたことあるわよね？」

「お店に入ったのも初めて……」

あちゃー。一体25年間、なにをして生きて来たんだか。

「まあいいわ。それじゃ、えーと、この台でやって。私が隣りで教えてあげるから。結婚がかかっているんだからね。勝つよ、行彦」

「そんなこと言われても、ぼく……」

結局、私たちの結婚を賭けたパチンコ勝負は、行彦の驚異的なビギナーズラックのおかげで私たちがぶっち切りの勝利をおさめた。

「男に二言はない」と、親父は渋々、行彦との結婚を認めた。

と、そこまではよかったのだが、困ったことに、あの真面目でやさしい行彦が変わってしまったのだ。

まず、パチンコにハマった。

よほどビギナーズラックがうれしかったようだ。

今日もあとひと月に迫った式の打ち合わせがあるというのに、私

の両親と3人でパチンコに行ったまま帰って来ない。

そして、なにより気がかりなことは、あの親父に感化されはじめたことだ。

「ゆかりさん、ゆかりさん」と私の顔色をうかがっていた行彦が、最近じゃ「ゆかり」とか「おまえ」とか呼び出した。

私の前で平気でオナラもするようになった。

完全にあの親父の影響だ。

これはマズイ。

私が夢に描いている結婚生活は、私が中心でなければならぬのだ。

だから、行彦を選んだのに……。

「おい、ゆかり。けえつたぞ。行彦の野郎、今日も10箱も出しやがってよお。おい、行彦、今日も泊まっていけ。ゆかり、ぼやぼやしてねえで、ビールだよ、ビール。キンキンに冷えたやつな」

なんてやつらだ。

人が首を長くして待っているというのに。3人でパチンコ帰りに飲んで来やがったな。なめんなよー行彦。

「行彦！ あんたなにやってんのよ。決めなきゃいけないことがいっぱいあるって知ってるでしょ」

「男がそんなチャラチャラしたこと考えられるかって。そうですよね、親父さん」

「おっ、その調子だ。おめえ、なかなか見所あるじゃねえか。銀行なんか辞めちまって、俺の跡継いで大工になれ！ 俺がみっちりしごいてやるからよお」

「よッ 棟梁！」（これ母さん）

こりゃ、同居はやバイかも。うん、結婚したら別居だ、別居。

「いっすねえ、大工。いまは銀行たって、どうなるか分かりませんから。やっぱ、手に職あるのが強いっすもんねえ」

行彦、調子に乗るのもいまのうちだぞお。結婚したら、しっかり再教育してやるからね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9789b/>

勝つのよ、行彦！

2010年10月11日11時48分発行